

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	宮前区第2グループ(宮前平・平・白幡台)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H29		H30		H29		H30	
	利用実績							
利用実績	1 宮前平こども文化センター							
	①年間延べ利用者数	26,690人	28,682人	②年間延べ利用団体数	393団体	377団体		
	2 富士見台小学校わくわくプラザ							
	①登録者数	458人	451人	②年間延べ利用者数	25,986人	26,440人		
	3 宮前平小学校わくわくプラザ							
	①登録者数	253人	297人	②年間延べ利用者数	15,941人	19,008人		
	4 土橋小学校わくわくプラザ							
	①登録者数	451人	461人	②年間延べ利用者数	24,595人	27,062人		
	1 平こども文化センター							
	①年間延べ利用者数	30,821人	27,699人	②年間延べ利用団体数	341団体	342団体		
	2 向丘小学校わくわくプラザ							
	①登録者数	301人	265人	②年間延べ利用者数	16,918人	17,246人		
収支実績	1 白幡台こども文化センター							
	①年間延べ利用者数	18,029人	17,394人	②年間延べ利用団体数	245団体	242団体		
	2 白幡台小学校わくわくプラザ							
	①登録者数	133人	117人	②年間延べ利用者数	7,906人	7,087人		
	3 平小学校わくわくプラザ							
	①登録者数	217人	236人	②年間延べ利用者数	12,335人	14,749人		
	1 収入	単位:円						
	指定管理料	169,407,535						
	2 支出							
	人件費	146,875,669						
	管理費	10,687,609						
	事務経費	6,699,570						
その他経費	9,103,743							
合計	173,366,591							
3 差引	-3,959,056							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> 仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 宮前区第2グループ合同事業で、乳幼児とのふれあい事業「ら・ら・ら ふれんど ホッピングパーティー」を実施。乳幼児と子どもたちの触れ合いのきっかけになるように、手遊びや絵本の読み聞かせ、手形スタンプ、バラバルーン等、さまざまな仕掛けを作るなど工夫を行い、異年齢交流を行った。 宮前平こども文化センター、平こども文化センターでは、乳幼児とのふれあい事業として、小学生と乳幼児親子を対象とした水遊び事業を実施。子どもたちが自由な発想で楽しめるように、水風船やおたま、バケツ、スプレー容器、シャボン玉等を用意し、また安全衛生面への配慮など工夫し、乳幼児親子と小学生が水遊びを通して交流し親睦を深めるなど異年齢交流を行った。 宮前平こども文化センターでは、「ちいさくっず役立ち隊」による新たな事業として、近隣のグループホーム・愛の家と共同で「お手紙を届けよう」を実施するとともに、運営協議会との共催事業「バルーンアート&マジックの世界」でも愛の家にポスターを掲示して参加を募るなど、積極的に多世代交流を深めた。また、畑の水やりスタンプカードを実施して乳幼児親子の来館を促すとともに、食べ物行事の回数を増やしたり、8日間のかき水デーを実施することで小学生の来館も促し、乳幼児及び小学生の利用者の増加につながった。 平こども文化センターでは、新たな事業として、地域の方と連携した公園美化の取組である「花いっぱいになあれ」を実施した。地域の方だけでなく、平中学校の生徒にも参加を呼びかけ、花壇作りを通じて、幼児親子、小学生、中学生、シニアとの多世代交流を深めた。 こうした取組の結果、乳幼児の利用者が約550人増加した。 				
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用者ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズについては、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努め、要望の多い事業を増やすなど、運営に反映させている。特に、宮前平こども文化センターでは、別途、幼児ルームにも「ここにノート」を置き、ノートを通じた保護者とのやり取りをもとに不足していた遊具のセット内容を揃えるなど、利用者ニーズを把握しながら、サービスの向上につなげている。また、白幡台こども文化センターでは、スタッフが利用者へ直接ニーズのヒアリングを行い、乳幼児室をより広い部屋に変更したり、中高生用の学習室を整備するなど、サービスの向上に繋げている。 特別な配慮を要する児童への対応については、巡回相談員による事例検討研修等により、職員の資質向上を図るなど、適切な対応が図られている。 学校及び行政機関との連携については、宮前平こども文化センターでは、宮前区子ども連合会との連携事業「作って遊ぼう!作って食べよう!」を新たな取組として実施し、子ども会との交流を深めた。また、白幡台こども文化センターでは、大蔵中学校地域教育会議の子ども会の立ち上げに参加したり、近隣企業が参加している白幡台第一公園まつりに地域教育会議の一員として参加したりと、地域の団体や企業との連携や交流を深めた。これらの取組により、各こども文化センターが多世代交流の一つの拠点となっている。 施設・事業の広報について、宮前平こども文化センターでは、直接中学生に意見や希望を聞き取りながら中学生だよりの内容を見直し、中学校の各クラスに当該よりの掲示してもらったり、広報に工夫をこらしている。また白幡台こども文化センターでは、宮前区役所や出張所、各自治会、保育園などに毎月たよりを配布する他、大蔵中学校には中学生・高校生たよりを年4回配布して中学生の利用促進に取り組むなど、積極的な広報活動を行っている。 運営協議会の実施については、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 保護者懇談会については、懇談会が事業計画どおりに開催されている。 				

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8	
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。また、向丘小学校わくわくプラザでは、特別な配慮を要する児童への対応研修の中で、特に気になる子への対応については受講者から事前にアンケートを取った上で研修を実施し、具体的な対応方法を講師に学ぶことで職員の資質向上につなげた。さらに、白幡台こども文化センターでは、館長が講師となって中学生対応研修を行い、中学生や高校生の脳の仕組みや具体的な言葉がけの方法などを学んで、職員のスキル向上につなげた。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実は無かった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3	
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 利用者の安全確保については、法人作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、各事例の館長会議での共有及び各館での事例検討会の開催により議論を重ね、職員等の意識向上を図っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループのこども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

また、老人いこいの家との連携事業や近隣グループホームとの連携事業を推進して多世代交流を深めるとともに、機会を捉えて子ども会や地域団体とも連携や交流を深め、地域に根差した事業を行った。さらに、中学生たよりの内容見直しや、たより配布先の拡大など、対象年齢を捉えた広報活動の工夫や改善も行った。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、より一層利用者の安全を確保するために、ヒヤリハット事例等の検討を職員会議等ででき細やかにを行い、対応策を立案し職員間で共有する等、さらなる取組を行うことが望ましい。